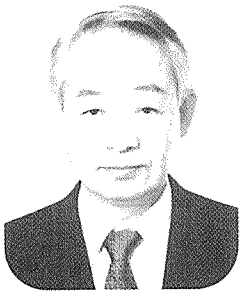
巻　頭　言

■ 次世代のために



岸　　清*

私の初孫が中学一年生になり，わが家に着くなり「今日は文化祭だった。」という。バイオリンが5人で，弦だけで10人以上とか。6年生の初め頃までは，そこそこ会話があったのですが，中学受験の夏休みに入った途端，突然こちらの質問に応答しなくなっていた。

部活ではサッカー部，背が急に伸びたと思っていたらキーパーだという。そして，カバンから文庫本を出して読み始めた。「何だ」と聞くと「三国史」とのこと。図書館から借りてきたようだ。わが家に来るとパソコンばかり。「音楽ウェブ（有料）から買っていい？」と，甘々の妻はすぐOK。今13才になったばかり，これから如何に相成ることやら。子供の成長を見ていますと，可能性の高さを感じざるを得ないのです。

さて，孫の話はさておき，わが土木界のことが心配であります。プラス指向の話題がほとんどなく，これはマスコミの偏りが最大の原因だと思いますが，さらに戦後，法科全盛となってしまったことなどにあるのではないかと思っています。少子高齢化の中で理科離れが顕著になってきています。しかし本当に心配なのは工学離れが進行していることだと思います。

このわが国が戦後短期間に復興をなしとげてきた礎がわれわれ土木陳の技術力であったことは間違いありません。停電が当然，何と台風で利根川が氾濫して，直接東京湾に流れていったような事態を忘れ去り，ダムはいらない，とは。皆が忘れたままです。

新入社員の頃初めて神戸造船所に出張したとき，夜行で三宮駅に着いた思い出，四国松山へ広島から朝一番の高速フェリーで誰よりも早く松山地裁前に並んでいたこと，等々思い出します。

四国に3本の橋が架かりました。それに対し無駄だ，などという人は四国の大きさを考えたことがあるのでしょうか。四国は中国・近畿地方の大防波堤であることが分かっているのでしょうか。青函トンネルについても，いろいろ思い出はありますが，北海道との唯一の陸路が完成して，どれほど国土の一体感に寄与したか計り知れません。

待ちに待った待望の施設であるのに，それを率直に歓迎しない風潮，本来は如何に活用すべきかを議論すべきところ，否定だけして葬（ほうむ）るようなことが続きすぎると思っています。

昨年ハリケーンで米国は大変な災害をこうむりました。毎年襲ってくるハリケーン，高潮対策があの程度であったとは信じられませんでした。わが国でも東南海地震の際には，津波災害が思いやられます。大阪も水浸しになる可能性があります。

われわれ土木陳の役割は，利便性を高めること，および災害を防ぐこと，の2点が最重要であると思っています。小生はたまたま電力会社に奉職し，原子力発電所の立地選定，配置計画，自前港湾の調査・計画・設計・建設と過ごしてきましたが，そのなかで，原子力発電所は安全確保が最重要であることから，耐震などにとくに関与してきました。

また，石油価格高騰の時代に入り，今回は前のオイルショックとは異なり，中国の輸入量の増大であることから，これからさらに継続するでしょう。少々手前ミソですが原子力発電の優位性は決定的でしょう。

今後とも，われわれ土木陳は自信を持って次世代，次々世代に対して，国を支えていく基本の礎を強く伝えていかなければならないと思っております。

* *Kiyoshi KISHI*：東京電力㈱ 顧問